

# 令和4年度中国・四国地区技術職員組織マネジメント研究会参加報告

フィールド科学系部門

近松 一朗

## 1. はじめに（目的等）

本研究会は中国・四国地区国立大学法人等の技術職員を対象とした研修である。組織をけん引する人材のレベルアップを図り、技術班長としてマネジメントに必要な知識等を習得するため、参加した。

## 2. 期間・場所

期間：令和4年8月25日～令和4年8月26日

場所：広島大学西条ステーション（オンライン：主催 鳥取大学）

## 3. 参加者等

参加人数：国立大学法人の技術職員 40名

## 4. 研修内容

- ・8月25日 講義Ⅰ オンラインファシリテーション研修
- ・8月26日 講義Ⅱ 大学におけるDX推進の課題と技術部の役割
- 講義Ⅲ 鳥取大学技術部の取り組み
- 講義Ⅳ 米子高専技術職員組織紹介
- 講義Ⅴ 技術職員の将来像について

## 5. まとめと感想

一日目のオンラインファシリテーション研修では増加傾向にオンライン会議に焦点を当てた講義で、オンライン会議と通常の会議の違い、メリットとデメリットを非常に分かり易く解説して頂いた。ロールプレイングやグループディスカッションでは議長として会議を進める上での目的とルール作りの必要性や注意点を学んだ。これまで会議等で議長の経験がほとんど無かったため、今回の研修で疑似的に議長の練習をできたことは非常に有意義であった。

二日目の研修はDXと技術職員の組織体制に焦点が当てられており、技術職員として今後、DXにどの様に係る可能性があるのか、すでに職場に導入されているDXがどの様に進歩していくのか考える良いきっかけとなった。西条ステーションでは搾乳ロボットや牛の行動センサー等のDXが導入されており、多くの情報が収集されているが、私自身は一部しかデータを有効活用できていないと感じている。搾乳ロボットは日々の業務に係る機会が多いことから、メンテナンス作業も含め必要な技術を習得し、データ等をより有効に活用できる様に努力していきたい。

今回の研究会の経験を活かし、自らの役割や組織の方向性を認識し、育成力や対人能力を向上できる様に意識して業務を行っていきたい。